

第51回日本精神科看護学術集会 市民公開講座（静岡県支部企画）

音楽はなぜ私たちの心を揺さぶるのか

～楽理と体験から探る“音の感動のしくみ”～

【日時】

2026年
6月27日（土）
14:00 開演

（13:40 開場 / 15:30 終演予定）

【会場】

アクトシティ浜松
大ホール

静岡県浜松市中央区板屋町111-1
※JR浜松駅より徒歩すぐ

【入場料】

無料

【全席自由】

事前申込不要

どなたでもご参加いただけます

※学術集会に参加されていない一般の方もご参加いただけます。満席の場合はご入場いただけない場合がございますので、お早めにご来場ください。

講座のご案内

音楽は、人間の最も原初的な表現のひとつです。喜びや悲しみ、懐かしさや高揚感——音楽はそれらを瞬時に呼び起こし、私たちの心の奥深くに共鳴します。しかし、その感動の源泉は、実は“偶然”ではありません。旋律の流れ、和音の選び方、リズムの間合い……そのすべてが精密に感情を設計する力を秘めています。

本講演では、吹奏楽団の演奏を交えながら、楽理と感情の密接な関係を解き明かします。理論と感性が交わる瞬間を実際に“耳で体験する”ことで、参加者は音楽の深層にある構造的な美しさを味わうことができるでしょう。単なる知識としての理論ではなく、音を通して“心が動く理由”を体感すること。それこそが、本企画の最大の目的です。音楽が人と人をつなぐ力、速度、そして感動が生まれる瞬間の仕組みを、理論と実演の両面から探求します。

講師紹介



塚本 修也 氏（吹奏楽指導者、トロンボーン奏者、プロデューサー）

東京藝術大学卒業、Royal Academy of Music, London（英国王立音楽院）修了。1996年～2017年までシエナ・ウインド・オーケストラに在籍。

現在、桐朋学園芸術短期大学講師、日本トロンボーン協会理事、浜松トロンボーン協会会長、公益法人日本吹奏楽指導者協会 関東甲信越支部理事・神奈川県部会副部長事務局長、一般社団法人 全日本校歌協会代表理事、アルスラゴ東京音楽監督、浜松市民吹奏楽団音楽監督、東京・春・音楽祭実行委員会（オーケストラ制作・マネージャー）、YAMAHAトロンボーンアーティスト。



浜松市民吹奏楽団は昭和50年7月創立のアマチュア吹奏楽団であり、20代から70代までの幅広い年齢層の団員が所属しています。年1回の定期演奏会を催すかわら、プロムナードコンサート、老人福祉施設での演奏等多数参加しており、12月には大好評のイベント「ビアフェスト」を開催しています。

当団の特徴は独自の国際交流であり、1989年・1995年・2002年・2010年・2025年の5度にわたりヨーロッパ演奏旅行を行っています。ドイツのマルクグリーニンゲン市民吹奏楽団(Stadtkapelle Markgroeningen)とは姉妹バンド提携を結んでおり、2002年からはオーストリアのザルツブルグ鉄道音楽隊とも交流を行っています。1991年にはマルクグリーニンゲン市民吹奏楽団が、2004年8月にはザルツブルグ鉄道音楽隊が来日し、アクトシティ浜松での交流コンサート等を開催し、交流・友好を深めています。

ご案内

FACILITATOR



木戸 芳史

一般社団法人日本精神科看護協会 業務執行理事 / 浜松医科大学医学部臨床看護学講座 教授

神戸大学医学部保健学科看護学専攻卒。看護師として精神科病棟にて勤務し、東京大学大学院医学系研究科・修士課程及び博士課程を修了（博士（保健学））。聖路加国際大学、三重県立看護大学を経て、2019年度より現職。2021年より日本精神科看護協会の理事（2023年から業務執行理事）、2024年から日本精神保健看護学会の理事も務めています。なお、学生時代より吹奏楽部に所属し、2022年より浜松市民吹奏楽団の団員としても活動しています。

主催団体のご紹介

ORGANIZER PROFILE

一般社団法人日本精神科看護協会 / 一般社団法人日本精神科看護協会 静岡県支部

一般社団法人日本精神科看護協会は、精神保健・医療・福祉の分野で働く看護職のための専門職能団体です。会員は、精神科病院や精神科病棟、地域の精神保健医療など、精神科領域での業務経験をもつ医療従事者で構成されています。精神科看護の専門性を高めることを目的に、学びや情報交換の機会を通じて看護の質の向上に取り組んでいます。精神医療の発展に貢献するための活動として、毎年開催地となる都道府県を選び、日本精神科看護学術集会を開催しています。この学術集会では、精神科看護に関する研究や実践の成果を共有し、学びを深めることで、人々のこころの健康と福祉の向上を目指しています。そして、精神的な支援を必要としているすべての人々に、より良い看護と支援を提供できるよう、看護職の支援力の向上を目的としています。